

※こちらはご意見をいただく対象ではありません。

手数料の料金について

資料2 手数料の料金について

袋の大きさ	1枚当たりの手数料の料金水準	1リットル当たりの手数料の料金水準
小	15リットル 15円	1円
中	30リットル 30円	1円
大	45リットル 50円	1.1円

手数料の料金水準については、平成20年度アンケート調査や平成23年度土浦市廃棄物減量等推進審議会委員にご検討をいただき、過度の住民負担とならないこと、住民の受容性を考慮し、1リットル当たり1円程度とし、1世帯の1月当たりの費用負担を500円以内（1枚50円×10枚入り）が妥当との提言をいただきました。

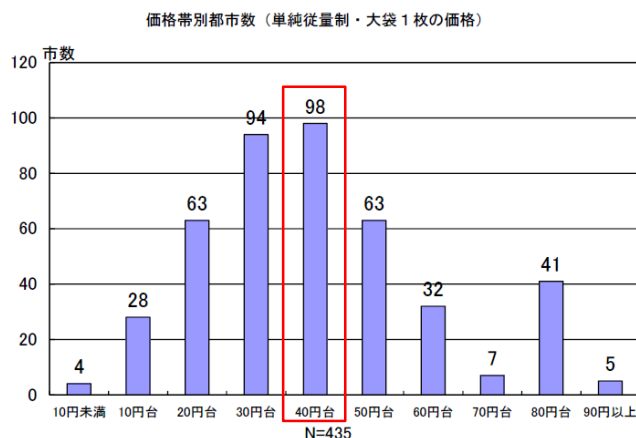
手数料の料金水準と減量化効果について、環境省「一般廃棄物処理有料化の手引き」より、1リットル1円とした場合の排出抑制率は20%と結果がでております（実施団体平均値）。また、参考①より翌年度では12%、5年目では14%の排出抑制効果があるとの結果が出ています。本市の家庭系ごみの減量化13%以上達成が目標となっており、可能な範囲と考えられます。

【参考①】 手数料水準と家庭ごみ排出量の減量効果（大袋40～45ℓ）

料金区分	有料化導入翌年度	有料化導入5年目
10～20円台（0.25～0.5円/ℓ）	4.1%減少	5.6%減少
30円台（0.75円/ℓ）	12.9%減少	14.1%減少
40円台（1円/ℓ）	12.2%減少	14.1%減少
50～60円台（1.25～1.5円/ℓ）	14.3%減少	16.9%減少
70円以上（1.75円/ℓ）	17.2%減少	22.4%減少

山谷修作（東洋大学）「第4回全国都市家庭ごみ有料化調査（2012年）」

【参考②】 価格帯別市数（大袋）



注) 2016年10月現在。

山谷修作（東洋大学）「全国市区町村の家庭ごみ有料化実施状況（2016年10月現在）」

【参考③】大サイズの手数料の料金水準を、小・中サイズと差をつけることについて

利点	欠点
より小さいサイズでのごみの排出を誘導することでごみ減量化を図る。	大サイズで出す人は額が高くなるため不公平感を感じる。

【参考④】負担割合

平成 27 年度のごみ処理経費とごみ総排出量（実績値）をもとに 1 リットル当たりの経費を算出すると、4.2 円/ℓとなり、1 リットル 1 円は約 1/4 にあたります。

平成27年度ごみ処理（家庭ごみ、事業系ごみを含む）

一般廃棄物処理費用の合計金額	a	1,954,001,783 円
ごみ処理量	b	58,078 t
ごみ1kg当たりの経費	c=a/b	34 円/kg
ごみ1袋当たりの経費（40ℓ5kgで換算）	d=c*5	168 円/袋
1ℓ当たりの経費	e=d/40	4.2 円/ℓ

他市の例

栃木県矢板市 経費の 1/4 を市民に負担してもらう想定

長野県千曲市 ごみ処理原価の 1/4～1/3 程度になるように想定

沖縄県名護市 ごみ処理単価の排出者負担率が 30%となるよう想定

環境省「一般廃棄物処理有料化の手引き（平成 25 年 4 月参考資料）」